

学校法人電波学園 東京電子専門学校
診療放射線学科同窓会 卒業記念講演会 2021.03.16

「創造する医療人へ」

～ 先輩からのメッセージ ～

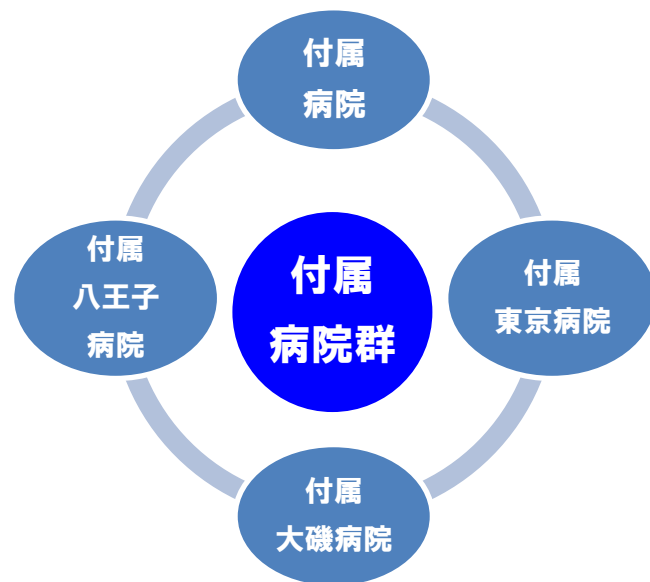


東海大学医学部付属病院
川又 郁夫（第6期生：1997.3卒業）

【経歴】

『自己紹介』

1956年 3月7日生まれ 東京都出身
 1977年 3月 東京電子専門学校卒業
 1977年 4月 東海大学医学部附属病院 入職
 1997年 3月 放送大学教養学部卒業 学位取得
 2008年 4月 東海大学医学部附属八王子病院 異動
 診療協力部 放射線技術科 科長
 2011年 4月 診療協力部 次長
 2013年 4月 診療技術部 部長
 2017年 4月 東海大学医学部附属病院 異動
 診療技術部 部長



【所属学会等】

公益社団法人日本診療放射線技師会 (JART)
 公益社団法人日本放射線技術学会 (JSRT)

【委嘱】

日本X線CT専門技師認定機構 監事
 CTGUM 顧問 (JSRT)
 臨床研修実施運営委員会委員 (JART)
 読影分科会委員 (JART)
 東海大学医療短期大学 非常勤講師
 北里大学 非常勤講師
 東洋公衆衛生学院 非常勤講師

【認定技師】

X線C T 認定技師

【賞罰】

神奈川県保健衛生知事彰







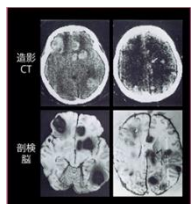
1972.04

英国放射線
学会で報告



1975.08

東京女子医科大学
にて臨床初撮影



EMI MK-1

1975.10

藤田保医科大学
に設置(治験)



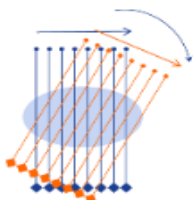
CT-H250

1977.04

東海大学医学部
付属病院入職

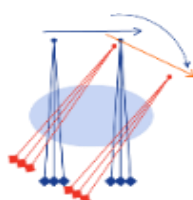


CT-HSF



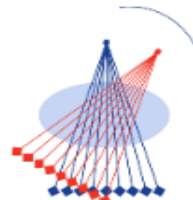
第 I 世代

`73~76



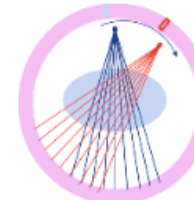
第 II 世代

`75~78



第 III 世代

`75~2017



第 IV 世代

`76~85



TOKAI UNIVERSITY

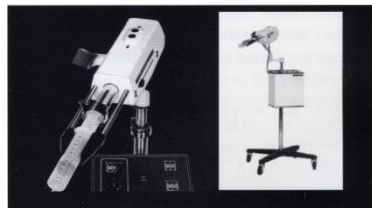
1984

神奈川CT研究会活動

日立製作所と
共同研究開発



W-600



第V世代
'84~

1987

共同研究開発
の結果として



W-1000



1987.11

ヘリカルスキャン
による画像発表

「共同研究開発」

- スキャン時間の短縮
パルスX線or連続X線
- 実効エネルギーの検討
- 操作性の向上
- 再構成フィルターの開発
- 固定具の開発
- 画像処理ソフトの開発
骨密度・3D・脳血流
- 付属機器の検討
マルチイメージャーの評価
インジェクターの評価

1989~

放送大学入学
1991.4~

技術革新の視点

- 医療機器は日進月歩
- 「技術」と「臨床」をつなぐ役目
~ 放射線技術学 ~
- 常に学ぶ姿勢
「継続は力なり」



マルチスライス化へ

関東SOMATOM研究会活動

1994

GE
HSA/RP
導入



HiSpeed Advantage/ RP

- ・ヘリカルスキャン
- ・自動管電流可変「Smart MA」
- ・ビームピッチ
- ・ワークステーション
- ・造影方法

1997

放送大学卒業
(経営工学)

1998

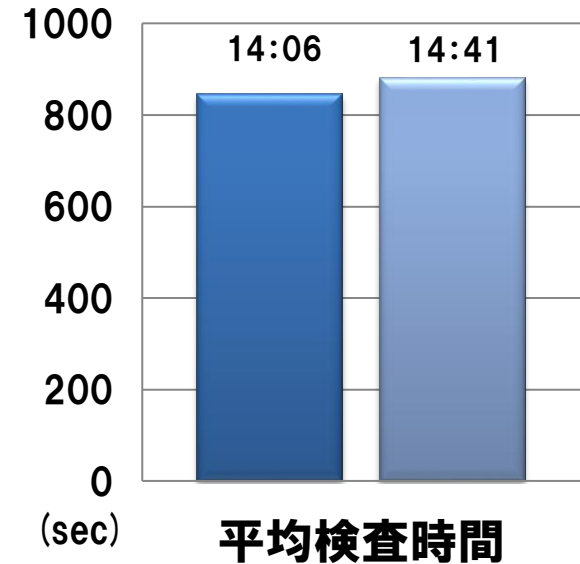
K大学病院に
4列マルチスライ
スCT導入



Light Speed QX/i

- ・TIME STUDY 調査
シングルからマルチ
スライスになり、検査
時間の短縮
(ワークフローの改善)

Time Study



■ K大学 ■ 東海大学

業務改善の視点

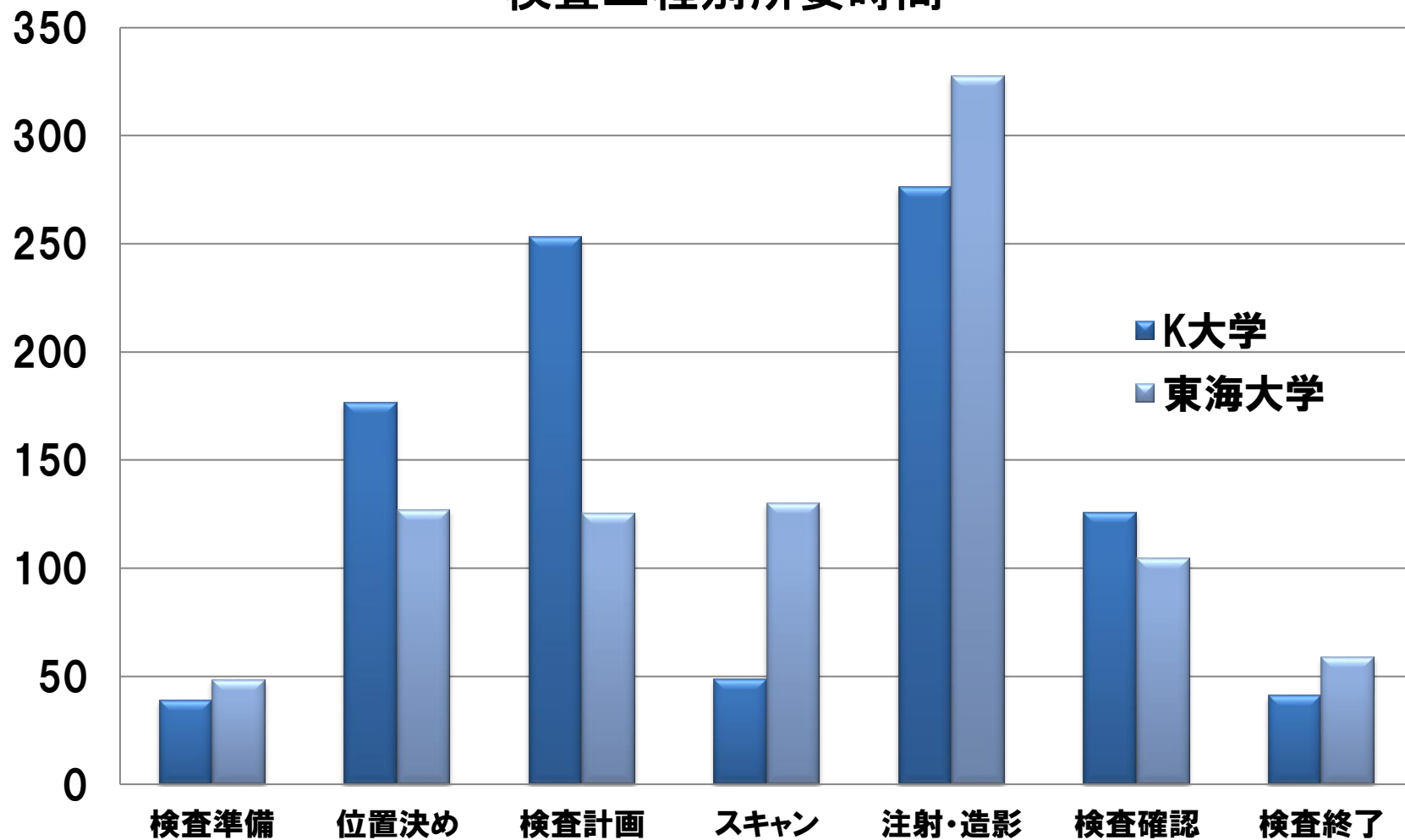
- ・「病気でいる時間は1秒でも短い方が良い」
- ・「その日に結果がでる大学病院」



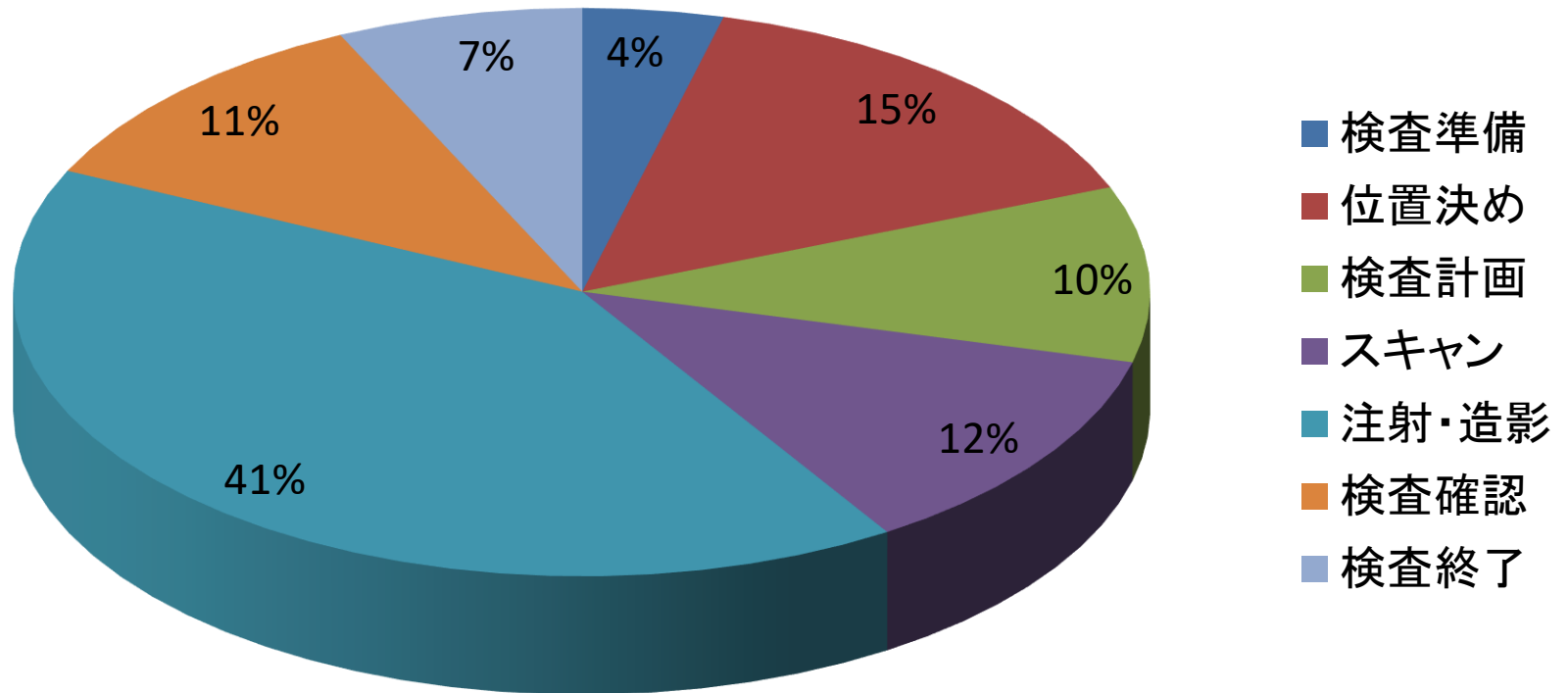
TOKAI UNIVERSITY

(sec)

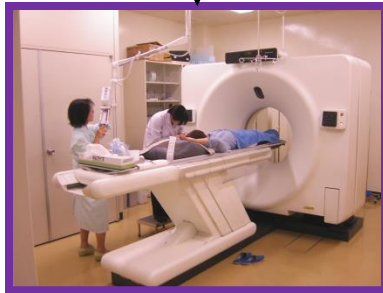
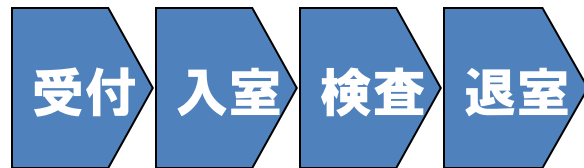
検査工程別所要時間



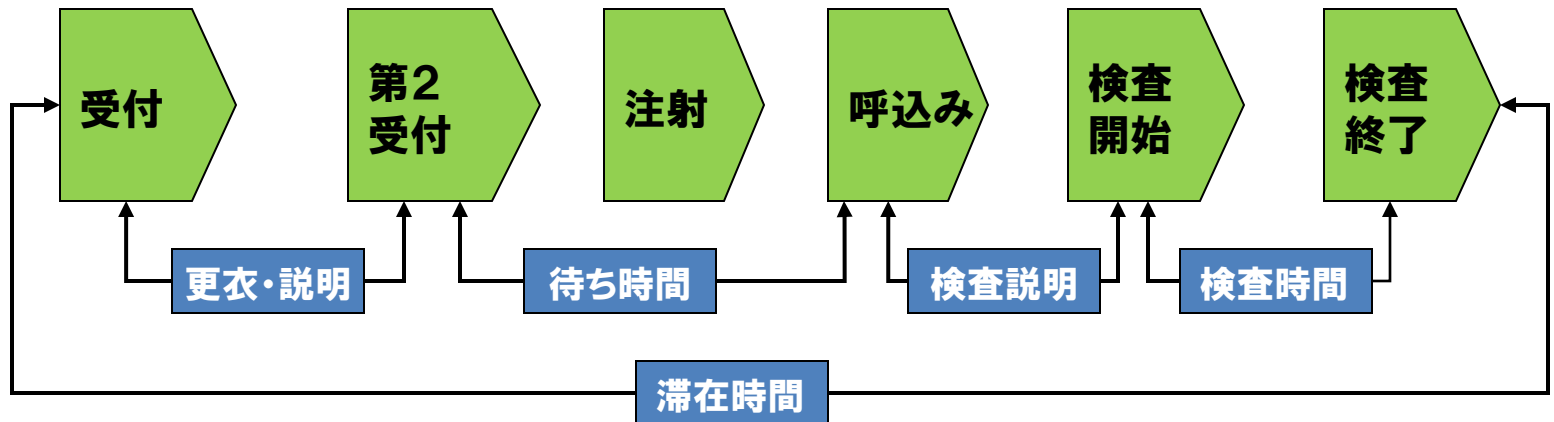
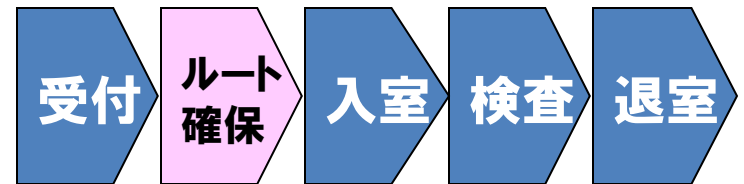
検査工程別所要割合



検査室内ルート確保

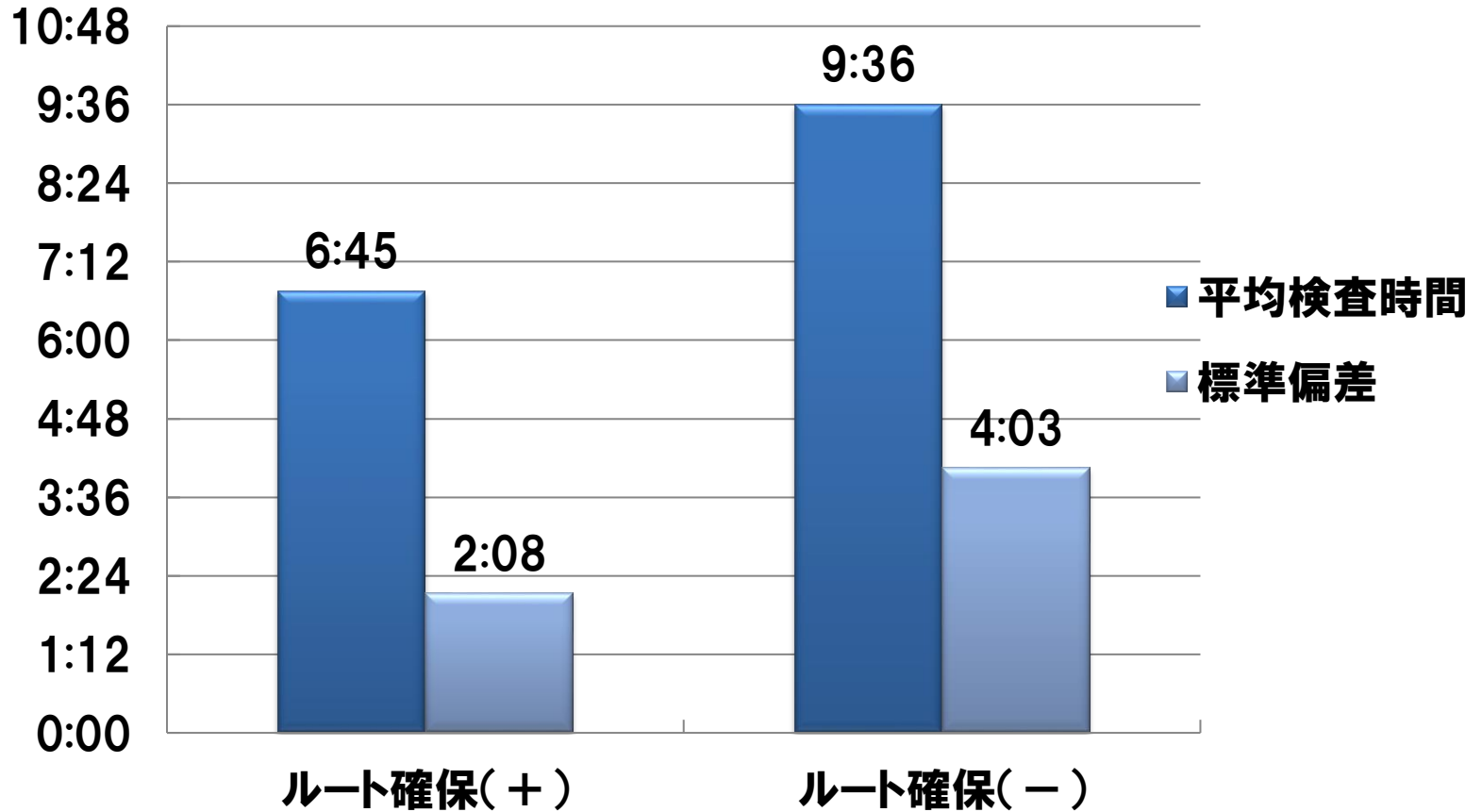


検査室外ルート確保



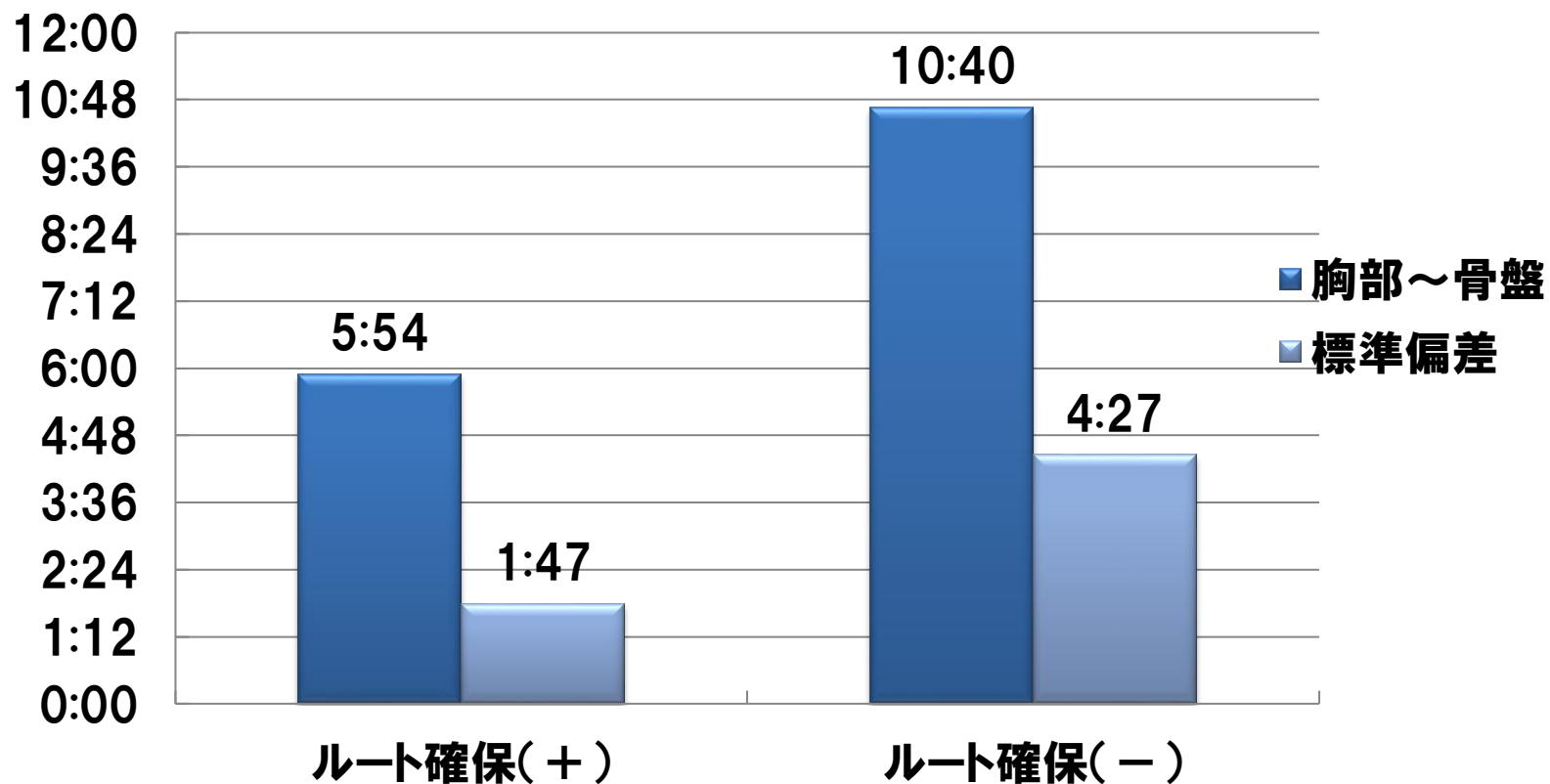
検査時間比較(100例)

(分:秒)



(分:秒)

検査時間比較



2005

CTGUM活動・県技師会 理事就任

新病院
開院



Sensation 64



Emotion 6

2008

付属八王子
病院へ異動



Sensation 16



Emotion Duo

- ・冠動脈CT検査のルチン化
- ・列数の異なる装置運用
- ・教育時間の短縮

2010

診療技術部長就任

日立製作所と
共同研究開発



SCENARIA

- ・操作性の向上
- ・新機能の評価
- ・逐次近似応用
再構成の評価
- ・冠静脈CT検査

2015

X線CT認定技師 取得

キャノンメディカ
ルシステムズと
共同研究



Aquilion ONE

- ・逐次近似再構成
FIRSTの評価と
運用

2017

付属病院
へ異動

「患者さんのために」⇒ 何ができるか？



TOKAI UNIVERSITY

診療技術部（構成：7科 13職種 約300名）
 診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士
 歯科衛生士、歯科技工士、視能訓練士、公認心理士
 管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
 細胞検査士（認定）、内視鏡技師（認定）

伊勢原経営企画室

伊勢原校舎
 附属病院本部

医学部附属病院

- ・ 医療監査部（院内感染対策室/放射線治療品質管理室/i医療機器安全管理室/医療放射線安全管理室）
- ・ 診療部（眼科/耳鼻科/口腔外科/精神科）
- ・ 診療協力部（医療機器整備室/画像診断支援センター/中央臨床検査センター/病理診断センター/栄養支援センター）
- ・ 中央診療部（輸血室/中央手術室/内視鏡室/腎・血液透析センター/リハビリテーションセンター/ロボット支援手術センター/血管内治療センター）
- ・ オンコロジーセンター（放射線治療室）
- ・ 健診センター

医療監査部

臨床研修部

病院事務部

診療部

診療協力部

中央診療部

オンコロジーセンター

総合周産期母子医療センター

患者支援センター

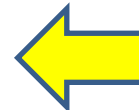
高度救命救急センター

診療技術部

薬剤部

治験・臨床研究管理部

看護部



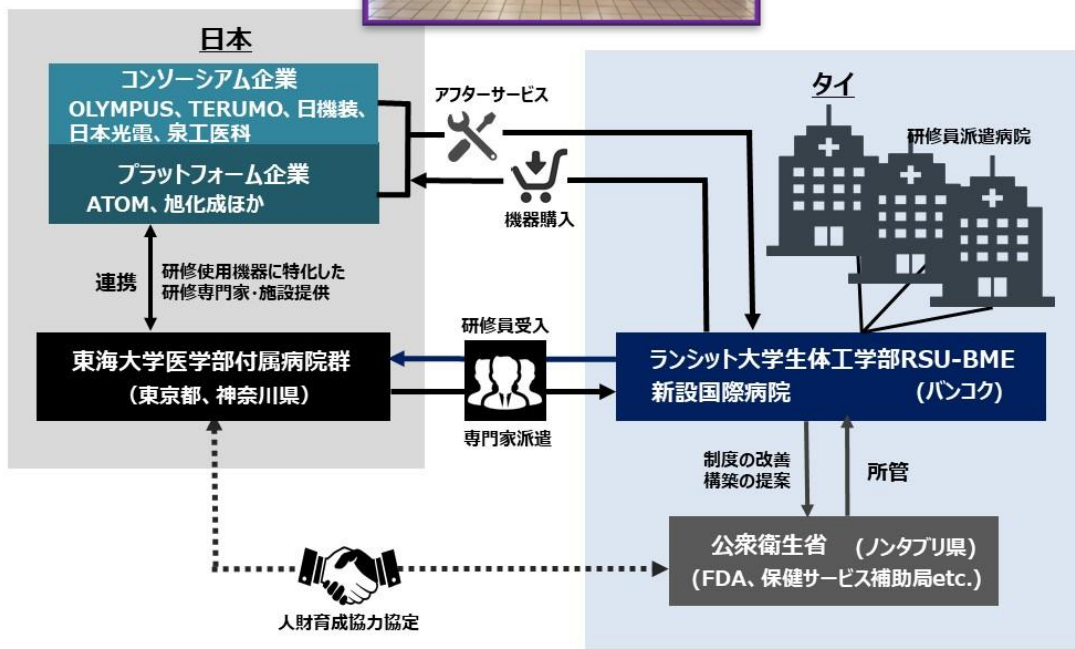


「医療技術等国際展開推進事業」(国立研究開発法人国立国際医療研究センター)

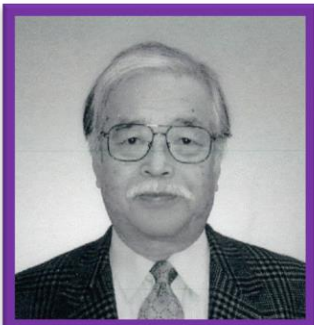
事業名:日本の臨床工学技士制度を通じたタイ型生体工学技士制度の充実に向けた
人材育成協力 (2019年度・2020年度・2021年度申請中)
～ランシット国際病院建築計画に伴う診療機器導入の機会に併せて～



医療のグローバル化







熊谷 智徳 先生

- ・放送大学 教養学部教授(名古屋工業大学名誉教授)
- ・専攻:経営工学、生産システム学、設備管理
- ・卒業研究:大学病院(CT)における「TPM:総合的設備管理導入」に関する研究(熊谷ゼミ) 医療現場の労働生産性を上げる

大学で学んだ知識は、多くの「引き出し」を持ったことになる。
悩んだ時は、その「引き出し」を開けて対応しなさい。



田中 豊 先生

- ・東海大学医学部基盤診療学系準教授(肝臓外科医)慶応大学卒
- ・専攻:病院管理学
- ・1997年4月より、経営企画室長の田中先生と付属病院のリエンジニアリングに携わる。(2005年1月:新病院開院)

多角的にものごとを視て、考える。



松原湖キャンプ(田中塾)

- ・毎年、8月の第一週の土日(一泊二日)
- ・参加者:商事、マネジメント、システム、建設、医療機器
病院(医師・看護・事務・技術)
- ・それぞれの領域での最新情報のプレゼンを行う。
- ・BBQ、夜通しディスカッション



GOLF GUM (CTGUM)



全国のCT仲間



診療放射線学科 同窓会





Rangsit University



Queen Savang Vadhana Memorial Hospital

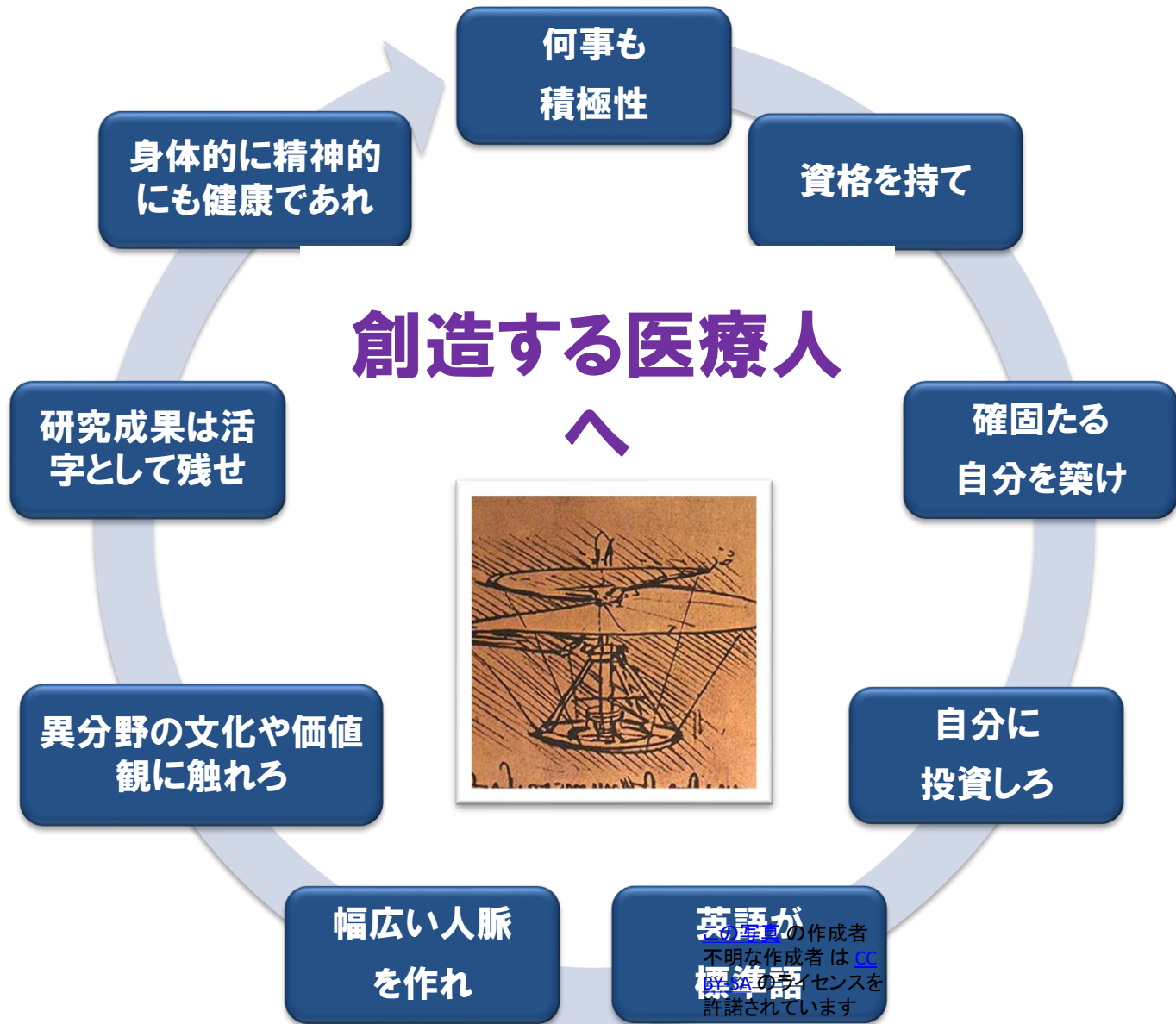


田中先生を囲む会(浅草) 2014.3.8





京都吉兆 嵐山本店 2018.3.17



	メッセージ	
I	「何事も積極性」	学会や会議などでは、積極的に質問すること。質問をするには勉強もするので、正の循環が始まる。
II	「資格を持て」	各専門分野の認定資格等を取得すること。不確実性の時代には大きな武器となり、取得する過程にも重要な気づきがある。
III	「確固たる自分を築け」	やるなら何でも一生懸命やって、一番を目指せ。トップ志向は、向上心・積極性を高める。
IV	「自分に投資しろ」	資格取得のための費用は、学会の個人会費などは決して無駄ではない。将来の自分への投資だと思え。
V	「英語が標準語」	学会等では、英語が標準になりつつある。外国人とのコミュニケーションが自信にもつながる。
VI	「幅広い人脈を作れ」	人脈や学会ネットワークは、大きな宝・財産となり、対外活動を通じ、自身の成長ができ助けてもくれる。
VII	「異分野の文化や価値観に触れろ」	均一化された集団の中では、考え方や行動が画一的になりがちである。異分野を知ること、新たな発想を生み、柔軟性を養うことが大事である。
VIII	「研究成果は活字として残せ」	自身の成果を後輩へ引き継ぐことは、社会への貢献であり、自分が生きた証でもある。
IX	「身体的に精神的にも健康であれ」	“よく学び、よく遊べ”の実践が大事である。挫折も自分を磨く試練の一つであると考えれば、気が楽になる。

新型コロナウイルス感染症への対応について

I 健康管理

1. 健康観察の実施

- ①朝・夕2回の体温測定を行い、37.5℃以上または平熱より0.5℃の上昇の有無
- ②味覚障害、臭覚障害の有無
- ③呼吸器症状の有無

上記の症状がある場合は、出勤せず、上司に連絡し指示を仰ぐ

II 院内及び校舎内での注意事項

1. 「身体距離の確保」、「マスクの着用」、「手指衛生(手洗いまたは手指消毒)」 からなる基本的な感染対策の実践

- ①エレベータは5人以内とし、マスク着用し、**会話しない**
- ②会議室、カンファレンスルーム、休憩室などの比較的狭い空間でもできるだけ**人との距離**をとる
- ③院内での食事は、なるべく一人で、必ず無言で、速やかに食べ、食後は直ぐにマスクを着用する(**孤食**)

コミュニケーションがとれない！

III 日常生活上の注意事項

- ①クラスター連鎖の場への**訪問は徹底的に避ける**
- ②同居人以外の**食事(会食)**を極力避ける
- ③不要不急の帰省や旅行など、警戒地域への**移動は極力避ける**



ダイヤモンドプリンセス号
横浜港入港 2020.2.3



医療従事者へのエール

「医療人として」
患者さんのために、最高の医療を提供し、常に専門分野の向上に努め、その知識や技術を組織横断的に展開し、チーム医療の推進役を目指す。

Yoko Sunka



第68回関東支部研究発表大会

「Innovation を臨床現場へ」
～放射線技術学の更なる深化～

会期: 2021年11月27日(土)～28日(日)

会場:メルキューホテル横須賀+オンデマンド

大会長:川又郁夫

実行委員長:曾我部和美



主催 公益社団法人 日本放射線技術学会関東支部



TOKAI UNIVERSITY